

一般質問



前田 治 議員

質問1 巡回ワゴンにより、交通弱者をどの程度カバーできるか

市長 カバー度合いは、容易に把握できない

問 市は、バス停や駅から離れていて、通院や買い物などが困難なエリアの方々の利便向上を目的に、巡回ワゴンの実証運行をすると発表しました。

交通弱者と言われる方々にとって、買い物など日常的な移動にも不自由を強いられている状況が全国各地で問題となっており、北斗市においても重要な課題となってきました。

市は、駅やバス停から離れた地域に住んでいるなど、移動に不自由な市民の人数がどの程度になると認識をし、そのうち、巡回ワゴンの運行により、どの程度カバーできると考えているのか。

答(市長) 駅やバス停から離れているということだけで、移動に不自由な市民であると判断できるものではなく、そうした方が、自家用車を利用できる環境にないことや、送迎してくれる家族や身内がないことなど、住民個々の実情を踏まえた複合的に判断すべきものであり、こうした人数やカバー度合いは、容易に把握

できるものではありません。今後、実証運行を通じて、利用実績やニーズを的確に捕捉し、利用されない方の意見の把握にも努め、より利便性の高いライダーシステムとして機能することにより、バスや鉄道、タクシーなど既存の公共交通との共存共栄と、持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指してまいります。



実証運行中の巡回ワゴン (茂辺地5丁目バス停)

質問2 七重浜地区の温泉施設が閉店。どのような影響があるか

市長 多くの市民に影響を与えるものと認識している

問 昨年の夏頃から七重浜地区の銭湯が休業状態となり、さらに七重浜地区の温泉施設が9月で閉店になるとのことです。これにより、七重浜地区から入浴施設がすべてなくなり、地元住民はもとより

多くの市民から戸惑いの声が多数寄せられています。

以下の点についてお伺いします。
 (1)両施設の休業・閉店により、どのような影響が出ると認識しているのか。
 (2)両施設は民間施設であるが、営業継続など、市として何らかの支援等を行う考えはないのか。

答(市長) (1)両施設は、これまで公衆衛生の向上や健康増進はもろろのこと、地域の皆さんのコミュニケーションの場となっており、会議や宴会など入浴以外の目的での利用も含め、多くの方が他の施設を利用せざるを得ない状況となっています。

また、従業員等の今後の雇用状況や、ふれあい入浴券利用者の選択肢が減少するなど、多くの市民に影響を与えるものと認識しています。

(2)市として、「七重浜の湯」への営業継続に係る直接的な支援は考えていませんが、施設所有者からは「運営者を探したい」との意向と伺っていますので、新たな運営委託先につながる情報があれば提供するなど、今後も継続して情報交換を行うとともに、閉店に伴い離職する従業員やパートタイム労働者の求職相談についてもハローワークを通じて情報提供に努めてまいります。

質問3 環境基準値を超える重金属セレン検出。その後の推移は

市長 その後、漸減している

問 市は、6月11日の「北海道新幹線トンネル工事に伴う掘削発生土に関する調査特別委員会」で、村山地区受入地の地下水から、環境基準値を超える重金属のセレンが検出されたと報告しました。

鉄道・運輸機構は、市の要請により原因究明及び必要な対策を講じていると思われまます。

以下の点についてお伺いします。
 (1)週1回実施の水質分析による溶出量の推移について

(2)盛土上部の仮覆土がどのように行われているのか。また、要対策土搬入再開後、仮覆土は撤去されるのか。

答(市長) (1)機構からの報告によると、6月3日の採水では基準値と同値の0.01mg/Lで、その後、漸減し、8月30日の採水では0.003mg/Lとなっています。(2)対策土の搬入を休止している村山地区受入地では、雨水が対策土に触れて流下しないよう、盛土上部全体を覆土しており、この仮覆土は雨水が地下浸透しにくいよう粘性土を30cmの厚さで敷きならし、転圧をかけています。また、対策土の搬入を再開する際は、この盛土上部の仮覆土は除去することとなっています。